

令和 6 年 度

生 活 環 境 学 部

第 3 年 次 編 入 学 者 選 抜 学 力 試 験 問 題

小 論 文

〔 住 環 境 学 科 〕

令和 5 年 6 月 1 0 日 (土)

1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0

注 意

1. 解答は、別添の解答用紙に書くこと。
2. 総ページ数 ———— 2 ページ
問題ページ ———— 第 2 ページ
(第 1 ページは、下書き用紙)
3. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

住宅でのバリアフリーに関する以下の問いに答えなさい。問1は解答用紙の表面に、問2は解答用紙の裏面に記述しなさい。必要な場合は、絵、図を用いても構いません。

問1 厚生労働省「2021年度人口動態調査」によると、住宅内での事故死者数の85%以上を65歳以上の高齢者が占める。このデータから、若い時期は支障のなかった住宅内の物理的環境が、加齢による身体機能の低下によってバリアとなったことが要因の一つと想定される。

- (1) 高齢期に新たにバリアとなる住宅内の物理的環境の部位を2箇所挙げ、次の三つの視点、i) どのような身体機能の低下により生じるか、ii) バリアが生じる物理的環境の部位、iii) そのバリアを改善する方法、について具体的に述べなさい。
- (2) 一般的に住宅は、世帯形成期、子育て期から高齢期まで異なるライフステージを同じ住環境で過ごす。異なるライフステージで安心、安全な居住環境を実現するために、住宅設計で留意すべき内容について、あなたの考えを述べなさい。

問2 住宅のバリアフリーでは、物理的環境のバリアフリーに加えて、熱・空気環境的観点からのバリアフリーについても注目されている。冬季住宅内の温熱環境の偏りを緩和するバリアフリーデザインに関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 温熱環境のバリアフリーデザインを必要とする理由、社会的背景について、あなたの考えを述べなさい。
- (2) あなたは住宅計画・設計の専門家として、高齢夫婦のみが住む既存の戸建住宅の改修計画・設計を考える立場にあるとする。ここで、温熱環境のバリアフリーデザインを実現する住宅の改修計画・設計案に含む必要があると思われる具体的な対策・工夫について、あなたの考えを述べなさい。